

---

 < 書 評 >
 

---

大阪市立大教授 和田正久著 「内科診療必携」

東邦大講師 安部井 徹

和田正久教授のご指導で、若い二人のインターン生も加わって書かれた「内科診療必携」を読んで、またひとつ、日本の医学教育を脱皮させようとする試みがなされたことを発見して、大変愉快になった。

序文にもあるように、この書は、医学教育に失望しかけた二人の若い医学徒のエネルギーが、二人の有能な教育者によって、上手に学問に転向された結晶である。随所に四者のハげしい気合が感ぜられる。教育は機構よりも人であり、教え教えられる人々の間の和であることを改めて痛感した。

この種の書物は世に多いが、内容の充実と正確さを気にしすぎる嫌い

がある。ことに小冊子のときには、理解し難い場合が多く、また事にあたって参考にならない場合が少なくない。本書は、いづこを読んでも、われわれが知らねばならないこと、知っておきたいと思うこと、および書きとめておきたいことが書いてある。また、ひとつひとつに、肩がこらずに学び取り得る配慮があって、非常に親しみ易くなっている。あげられている項目については、順序がABC順なので、何かが足りなそうで心配だが、新しい医師の常識として知っておいてもらいたいことは、ほとんどすべて網らされているようである。その把握も確実で新鮮である。忘れ易い事柄も、多くの表によ

って要領よくまとめられていて、瞬時にして参考になる。図が多いのも、理解を早めさせている。

本書は新しい医師の友として、傍らに置いておくに足る良書の一つとして推奨されるとともに、多忙な臨床家が新しい知識に取り組む時に、まず読んで見る価値のあるものと考えられる。

以上、一読しての卒直な感想であるが、この種の書物は、長く傍らに置いてみないと、本当の評価は不可能である。おそらく、本書も長い時間の後に、より完全なものとなって行く種類のものではあろう。

A 5 判 頁246 図54 ¥1,300 ㊦70

---

 医学書院 刊
 

---